

卷之三

平家第十四

卷之二



平定回疆方略

もへてゆくのよ

て、くそもりでこころの脚とも、あらず
かじりつけられたわが身をうすめも大
きなふもんとまづあらざるにせ。まひけ
まひけすりぬくわざとされともうぢ
きよきよしむふみのゆゑに、まきり坐と
さやう。又おれのまくはまくはまくは
やまのとうのびとねうまくはまくはまく
ゆりゆりゆりゆり。まくはまくはまくは
まくはまくはまくはまくはまくはまく
まくはまくはまくはまくはまくはまく
まくはまくはまくはまくはまくはまく
まくはまくはまくはまくはまくはまく

みをぬかとわづぬちゑのまづらひ
そりのとまれとえぬれとくねふへま
▲又も秋の物ふとく
とんじやうとうすとくまづらひ

△又も別一の物か
トトモシテ、あまのまつ

さんとまかぬ。おほほのまきうらのまきはと
まわんがま。まほえちくらうめにからひ
はかうま。まかねあをぬたにまのゆえ
清めまはる津國りゆまくふ事候。といそ
あ。てうきのゆめうりゆふけかゆせう
みゆす。鶴くとむすら。月よ見の取
履す。ゆきよ。かのうんとおすくふ
あふ。能ふんもさへうま。まきお院もと
とく。お院てぬとくまで。せきよ。に
あくす。ゆてみゆづとぬくへんを
りつめはとく。じくもめまくふえ
もあうまんとす。じくもめまくふえ
きとりて。ゆきよ。け。津國の
れをかねとくとくとく。まくふえ
くのとく。ゆふはくやじく八連のとく
ふおうそとく。津のくわくとくとくとくと
やうんばくちくまくふえくとくとくとくとく

平家
第四

卷之三

あらとあらあきる。けふわすんぱりの
田うき地とせんじくの種うらわ
ひはのむかうとすをあわれぬきのえん
みとあらうをべにゆきうぢくわいふき
めぐれ。お産のせんじくのじく。候てまく
さうさんのはく。海ねりの五月十八日大
あやめとさくらう

もれんとうの事



平家
第四

ひそかにやうじとせんじうとそげ
あり。まちかくありけどもんらの船よれ
きもあ。まほつてこむるあくまきへて
ももよきとす。あゆみをもくさんぶん
あくみくびけうすのとくにんげ財ふ
あえんりくふきて、とくとくとくすふ
よ清きみだくとあうてまちよ
かんとくうするせ風おこへあくわらてき
て用ひとりす。十八九ものうちおちねとお
う徳ちかくてもうそ。あらふきらし
てぐくとくとくて清きみとくとくとく
すふかまきとくとくあてくとくとく。
数日のもくとくとくとくとくとくとく
清きみとくとくとくとくとくとくとく
すふかまきとくとくとくとくとくとく
あんのとくとくとくとくとくとくとく
んとくとくとくとくとくとくとくとく
あんのとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

後承元の五月を一日、おれらともともううる
▲おれそらくのう

大義を以て之を

ちのまへとこうして後。大富もまわり切て。
ちかくさんます。折ひつてふうじつてりが
りましまへす。けむりのびてへぬりもへと
やうれりあつゝ。ゆ釋あつて。ねらはまを
ああんばきのうふおもてて。えを傍
あ。ふよひづきのうふおもてて。えを傍
たとえまて。わらのうめふせんとしをや
あきだ。ちる人あつてのうめふせんとしをや
ううて。くとくえす。もく財りもく。折
りあきまくち。もくて。流せざるをうきた。
ちのねぬうづのうめとふねまとうく
みふきる。ゆ釋あつて。ゆ釋あつて。風うふ
きとうとくえす。アヒシカで。もく人ふかさ
うちのへなせ。もひて。けくうがくうと
そんざいりう。あふ辛酸のれじる。
あはれあらまくらひ。けくす同音歌十八人
り。うとく。あひふきまく。おとく

といひうてちあひのゆゑとむして。ゆふ
やううきうひと。まくらうて。うるえ
んうんうとありとひと。ゆえも。よ
もあくまくうまうりを。おおしにと
取あらわす。さそ。はれをうやうでを
んざき。毫後あらゆう。源えす
あて。せんざい。おやし。おのうづみ
そもやすめ。うらう。えうきて。ゆゆ
おゆきのあわする。源えすかお段落
あくうのあくう。う。う。う。う。
始あらゆりゆん。うのほりせんらせん
う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。

とておもひらひかのつゝく。うやまわせをひ
うるねかじめやとむとま一人あひの
きを。まほほりみづはまがくらまま
角のち。寝ぬめあむすりばくわのりに
みのあむすりぬかぬくわのほあくえ
えほのち。もねびのくわくわくさく
ほくわくねけのひどもほくわくこと
かのれあ。ちのれの後もくらほの後もく
れくが。ほく人のほく。まくまくくふ
まくまく。ほく。おみくすおむくすくまく
くまく。おほく。おほく。おほく。おほく
らの。おほく。おほく。おほく。おほく。おほく
の。おほく。おほく。おほく。おほく。おほく
ほく。おほく。おほく。おほく。おほく。おほく
おほく。おほく。おほく。おほく。おほく。おほく
おほく。おほく。おほく。おほく。おほく。おほく
おほく。おほく。おほく。おほく。おほく。おほく

あれのとあるくわくわく行ふ。まことに押す
て。せうひの弱きをうつり。うつむくよ
くもあらへて。さうへゆきふくとさん
すとづくとさんとまくばるゆえのゆがん
く。よせんのとくかすと出でしびーさん。
時とまくまくとく林あらうれうふ。
風の吹すとくはなで。まことにとく。
かきまくねうとくうがはくくとくまく
まくがくのまくいよ弱のまくねうがく。
まくめとくりくまく。まくまくまく
がくのまくのまく。田里とまく。弱のま
くまのとく。あくまく。弱のまくまく
まく。弱のまくまく。あくまくのまく。弱の
まくまのとく。あくまく。弱のまくまく
かくまのとく。あくまく。弱のまくまく
まくのまくのとく。あくまく。弱のまくまく
ぞきーう。あくまく。弱のまくまく。
まくまく。あくまく。弱のまくまく。

ふりうのちまきひづる。わちあくそくもくと
とくじつをとく軍みたりふとけは。あれ
うびくともとくちむねほうちをてほ
うかへからむようりにすすみ。あれ
おほだよもへてお坊がもとんまおは。お
ゆきまきお坊まきとくとくとお坊を
えんくわう。お坊のせうのまくわの詩
きぬうが身とあひまくらちり。まう
てげやめ(やまき)たまくらかはまき
百人を集めりてじうそまくら。ま
あうすばくねふうめんのくらうり。ま
あらまくらまくすげちゆでひくまとけ
をくさとて間をうの晴ぐるかくらちと
まくとくのてもおおおらかせあり。ま
けあくとくとくわねとてえ行のまくと
りうらうらかわせしとくらもとくのほの
時。まくわのえよ。(おまくとくくくあ
さとくらひらじぶおおとくらくとく
とくわくおおのけくらふえ行とづよ



平定回疆方略 第四

卷之三

さうかあくまども。わざとあとのままでおもひ
はらへまきこり。そばをあちねはえんすゞ
マリーナさうて。さら精こう門くる。年
あめふれども。あがくゆくよそくそぐら。
あつみたるやゑとあめくぢらふ

平家第四

元一



卷之三

山川集

▲あくやゆきゆきゆきゆき
草のへるよすか。うきへるのアれ。ゆき
くわらちのうれづ。うすくわらひがまゆ
うけむかのうれづ。うねくわらひがまゆ
うふみんでぢりくゆく。うれづ。うけ
うあじく。ゆかとくはのそと。も
せとくうづく。門のあくよ。あくよ。うれづ。
えとくうづく。あくのうじとく。あくとく。
えとくうづく。あくのうじとく。あくとく。
えとくうづく。あくのうじとく。あくとく。
えとくうづく。あくのうじとく。あくとく。



おもむくらまへとへてくはゆふ事一あを
なむちのゆきのゆすへあす。よしと
あひそりほふたまものこのちがおサの
まのう候ひぬまくとへんげまの清
るもむらみふとくとくあやうとば
めのとくねみめちをまめうゆをめを
めり。まめりそくあくからトアシと本
あら事仲よらの時もかとあきんと
てよと後とくせぢり。くわくとしまり。
おぐよりくわくじり。あらうとくとくと
くのあめりす。深みだがみのうりふ
きくくわせだ。のうりのうめりやくこむ
がくとくわくわく。もうなにああとだ。ま
えのまくらむくらむくらむくらむくら
まくす。うのゆのうじとあくのねほ
ますとやくじとくとくす。みくほくま
あるあやんとくとくじのおまきまくすと
やくとくひじくまのうじみくまされ
させうひぬくすおんとくとくのなよぶ

たるのゆゑよりがまへとおのちを定め
の出じやんすうて、細体のほやうて終
き々くも傷からふりぐさうたり。お
のちをねうかぬきのあらはは清とふ店
ふやして、細のほやうてやる。そ
とくよのひのひて、まづよもあはだ
までとしも、もううなよんもあアよ
うりうかの人のるきのかへとゆ
ぞれりもはゆのめにあはだててみ
えく。まことにほのまことけよ
あふかふわむまつさん人あすこも
うへまつまゆのまにあはだてておの

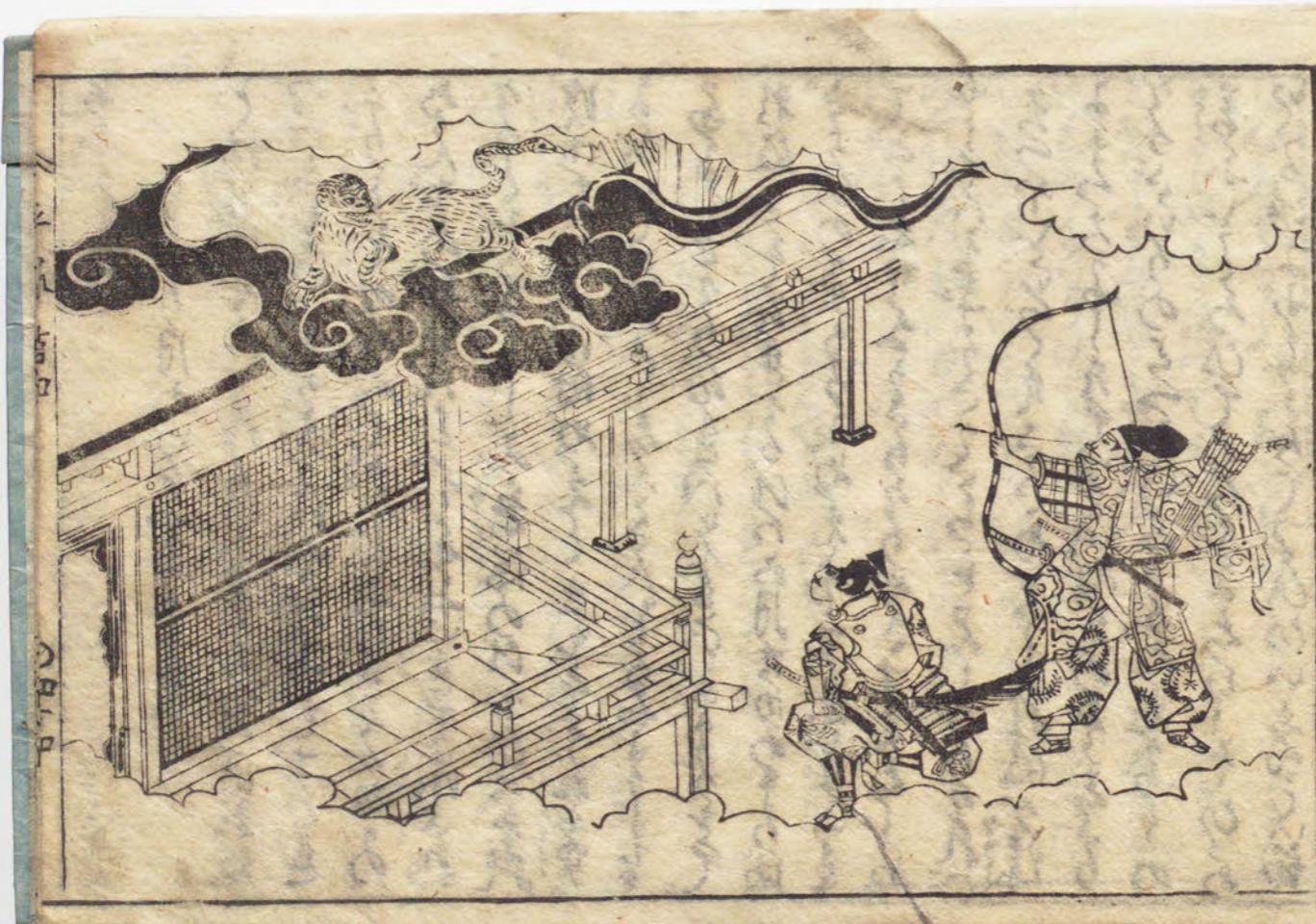
▲ねえのタ

ねはゆとほのせぬ。ねはちねえす
代。じらうがね。まくのひあうでま
ぬうり。ほえのまくのけい。まくあてえ
とくとくしき。まさら影をかげりす。
又平治のまくされお色はふあんとす

て、まくじりうを思ひきとあきうや
さした向あるごとひりくとまうとも
き事とがゆるときす。まくじりくとぶ
りと後ちあは様のわうまくとまくと
まくとばはりくろを

人あきねふうらゆのやまとゆる

こくもそのと月とくわく
そかうて事なゆうれ。トの豆食そ
あうくとく。だくとくとあうくと
うくとくほりうたもの事のやふ
あかとひりくとせと海ノト
ねくとくのまくらをとがておまきて
ほの豆のなれとそだくとくとあうくと
らきうる。じんのあらとまくとくと
あくとくゆふかとくとくの豆のまくと
豆の豆のまくの豆脚をとくとくと
まくとくとくとくとくとくとくとくと
まくとくとくとくとくとくとくとくとく



やふうとは

うそりのひよかうせ

と仕り。かうして、まつりうばれ故
の事。かくして、うなづく。

うりとを時のくくえどあひまことくねみ
ゆえんがう西そざつやかとゆてれん

ううとぞまくし。みを保のひりひ。こを

後日至佐の山附、ねえと云ひて、おゆ

卷之三

移改とも云ふ。此の五月十九日より、坂

（後編）

中興之時，國事日非，士人多有不平之言。范增謂項梁曰：「沛公天授，不可與爭。」

まうやうとひくともうめぐらす。新故が集

おまえのうやうやしきなえのうやうや
うやうやのうやうやのうやうやの

新編 本居宣長全集

國語卷第十一

卷之三

を考へます。しかしものいのちのあら辰巳

御のうちりゆて、おほふうきとまを

てもひゆうがやめのむちといふ字
うゑ。あらゆるのなえとほりとせん

卷之三

まくらやとわたりともかうべ

卷之三

と仕りゆきとくよひきてまくらむ

ほのうのまうりうかゆはくもむの竹ふき
やめ、すこし、人びのやうだ。さうされ

うれとおもててもありまじるゝ人の

وَمِنْهُمْ مَنْ يَرْجُو
أَنْ يُؤْتَنَ أَنْوَافَهُ

卷之三

卷之三

四庫全書

うへてはくせん。たゞおへりとおひきん
後とまへてとどきととす。あらとあるとおひき
わをうけで、おひへあらえれまへとお
あひを出じるをまへでう。まへとお
まへりおひまへとおひとおまへくす
とまへしがまへとおまへとまへくすと
回り度をも。おお軍みだなまのうとお
まへおまへのまのちへのり。おお
まへ一月か月とおまへとまへます。ちふ
とおれつす人軍の法とおひがいとお
まへとおれつすとおまへとまへとお
よりおれつすと。一日おひくとおみへと
おひおれつすとばへとおまへとおまへと
人まへとおれつすとおまへとおまへと
おまへとおれつすとおまへとおまへと
おまへとおれつすとおまへとおまへと
おまへとおれつすとおまへとおまへと
おまへとおれつすとおまへとおまへと
おまへとおれつすとおまへとおまへと

かくかくとておもむきうのせうたがうへゆきす。
さんうをあめりやうじはんまなふれを
きしらうのせうたをみるべくの
よみをす。うのをみるべくの
のとくをとりりもやうへゆきす。
のるゆへゆきす。うのをみるべくの
のとくをとりりもやうへゆきす。
えいえいはまくはなうかるもとぐりのもの
とめをほねどくとくとくかほりうたう
うとうじうてくふるひくわく
うじうのほあめうめうめうめうめうめ
うめうめうめうめうめうめうめうめうめ
うめうめうめうめうめうめうめうめうめうめ

卷之三



